２００９　生殖器・妊娠分娩系Ⅱ追再試　　　　　　　2010/02/17

【１】海野

妊娠高血圧について以下の問いに答えよ

1) 定義

2) 母体、胎児の症状

【２】天野

CSTの意義について書け

【３】川内

1) (　a　)細胞は血中のコレステロールをアンドロゲンにかえ、やがて(　b　)細胞で(　c　)されエストロゲンにされる。

2) 精子異常症のうち配偶者間人工授精の適応にならないのは(　ｄ　)、(　e　)である。

3) BBTの高温相において行う検査は(　f　)である。

4) 子宮内膜症の子宮筋層内に浸潤しているのを(　g　)と呼び、卵巣内に浸潤しているものを(　h　)という。

5) ゲスターゲンテストで出血するものは(　i　)度の無月経で、(　j　)を分泌する。

6) 更年期障害はホルモンの(　k　)の減少により起こり、(　l　)(　m　)的な因子に基づき更年期症状を呈する。

7) 自然流産は(　n　)％の確率で起こり、反復流産は理論上は(　o　)％の確率、習慣流産は(　p　)％の確率で起こるといわれている。

ところが、実際のところ反復流産は(　q　)％、習慣流産は(　r　)％の確率で起こる。

8) 異所性妊娠としては、全妊娠を１００としたとき(　s　)％におこる。最も出血するのは(　t　)である。

9) 生殖補助医療において、GnRHアゴニスト、GnRHアンタゴニストは(　u　)のために用いる。

【４】望月

帝王切開術を行ったときの合併症を列挙せよ。

【５】庄田

産科DICの特徴について述べよ。

【６】新井

(　　)の言葉のうち、適切なものを○で囲みなさい。

[1] 子宮筋腫について

1) 好発年齢は、(30～40歳、40～50歳)である。

2) 成人女性の(5人、10人)に1人が子宮筋腫を患っている可能性がある。

3) 挙児希望がある場合の手術方法は、(単純子宮全摘術、筋腫核出術)である。

4) 子宮筋腫のホルモン療法は、(エストロゲン療法、GnRHアナログ）である。

5) 子宮筋腫の大きさは、(鶏卵大、手拳大)である。

[2] 子宮体癌について

1) 好発年齢は、(30代、40代、50代)である。

2) 子宮体癌の発症リスクは、(喫煙、高血圧)である。

3) 子宮体癌の症状は、(下腹部痛、不正性器出血)である。

4) 子宮体癌の症状は、(下腹部痛、不正性器出血)である。

5) 類内膜腺癌の前癌病変は、(子宮内膜増殖症、子宮内膜症)である。

6) 子宮体癌で挙児希望の人への治療は、(エストロゲン療法、プロゲステロン療法)である。

【７】角田

婦人科の性器出血の原因につき述べよ。(←原文のまま)

【８】新部

1) 子宮頸癌のリスクファクターは(　ⅰ　)の持続感染が必要であることをみつけた人がノーベル賞を取った。

2) 子宮頸がんのⅢb期の５年生存率は(　ⅱ　)％である。

3) 子宮頸がんの治療について(a外科手術のほうが予後がよい b放射線治療のほうが予後がよい cともにかわらない)

4) 化学療法に併用して放射線療法には(　ⅲ　)照射、(　ⅳ　)照射があり、これはFIGOという国際規格で定められている全世界標準である。

以上

もしかしたら順番が違うかもしれません。